

日伯共同事業のシンボルである ウジミナス社の新たな展開

日本ウジミナス株式会社
(Nippon Usiminas Co.,Ltd.)
代表取締役社長
和田 文彦



50周年記念式典

戦後からいまだ10年余の1950年代の後半、日伯共同の鉄鋼事業であるウジミナス社が誕生した。ミナスジェライス州イパチングの地で62年、その第1高炉に火入れを行い操業開始した日から、今年はちょうど50周年を迎える。その当日である10月26日に、イパチングでは当事業の経営主体である新日鐵住金の宗岡正二会長、テルニウムのパオロ・ロッカ会長が出席して、記念式典が挙行された。ミナスジェライス州アナスタシア知事を迎えて、これまでの本事業の発展のため貢献した日本、ブラジル両国の関係者に多くの謝辞が寄せられた。また将来に向けて、2006年以降本事業に対する経営資源の投入を再び強化してきている新日鐵住金と、本年から経営主体として参加したテルニウムの両社がもつ生産・販売両面にわたる経営資源を十分に活用することをベースに、新たな発展を目指して参加者一同大いに祝った。

創業から現在まで

ブラジル政府が日本政府に製鉄所建設の協力を依頼した翌年、日伯合弁製鉄所設立に関する協定書が調印され、当時の八幡製鐵（現・新日鐵住金）を中心として日本ウジミナス社が設立されたのが1957年である。翌58年にウジミナス社が創業（日本ウジミナス社40%、ブラジル政府60%出資）、日本から延べ

500人を超える社員が派遣され、現地の人と力を合わせ近代製鉄所の建設に取り組んだ。日本経済は戦後の復興期を終え、輸出産業の育成とともに高度成長期に足を踏み入れ出した時期である。一方のブラジルでは、56年にミナスジェライス州知事から大統領に就任したクビチェック氏が、急速な工業化を目指して、BNDE（82年にBNDESに改称）に対して経済開発計画の策定を命じていた時代であった。

建設資金の多くは日本からの出資金のほか、日本輸出入銀行（現・JBIC）による機械代金融資と本邦民間銀行からの協調融資資金で賄われた。ブラジル側の資金の多くはBNDEからの融資により供与され、その原資の一部として輸銀からBNDE向け融資が供与された。

国営化の時代（1975年～）があり、その後の民営化（91年）へ至る途でも日本側持ち株比率是正問題においてBNDESは重要な役割を果たしてくれた。また83年から92年にわたるブラジル債権リスクスケジュール措置も輸銀をはじめとする関係先の支援対応によるものであった。

イパチング製鉄所は1988年以降粗鋼生産量400万トンを超えるレベルで推移し、またサンパウロ州クバトンにあるコジッパ製鉄所も傘下に収めたことから、近年粗鋼生産量は700万トンを超えるレベルに達している。米州大陸の中で、生産量、技術力とも優れた一貫高炉メーカーとしての地位を確立した。

ウジミナス社はブラジルでの板系鋼材市場で約40%のシェアを占めるが、特に高級鋼板市場で圧倒

的なシェアを誇る（厚板100%、自動車鋼板60%）。これらをさらに増強するため、2006年以降高級鋼板製造のための設備増強を実施してきている。2011年には、イパチング製鉄所内に位置し溶融亜鉛めっき鋼板を製造するウニガル社（新日鐵住金との合弁）が、55万トン／年の増産ラインを完成させ100万トン／年の規模に増強されたほか、本年はクバトン製鉄所で新連続熱延ラインが完成し、230万トンの熱延コイルが生産される。

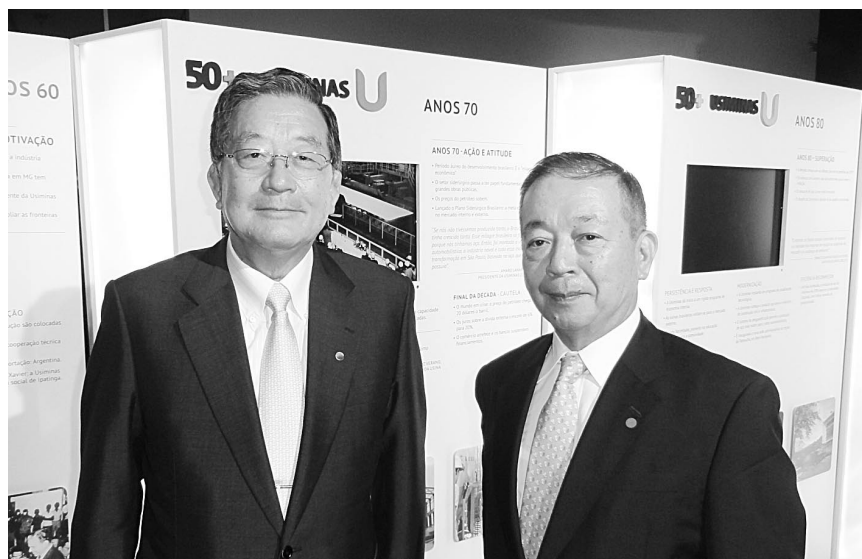
ウジミナスグループはコスト削減と効率的操業を目指し、原料の鉄鉱石開発プロジェクトをミナスジェライス州において実施している。2010年には当プロジェクトの実施主体であるMUSA社に住友商事による30%の出資を得て、開発した鉄鉱石をグループ内で使用するほか、2015年には2900万トンの生産を計画し、アジア向け輸出も予定している。

新たな展開

火入れ50年を迎えるこの2012年からは、ウジミナス社は新日鐵住金グループと米州大陸で広く鉄鋼業を展開しているテルニウム社による共同経営のもと、高級鋼板メーカーとして新たな業務展開に乗り出した。

現在、高付加価値製品の生産設備増強が一区切りの段階となり、需要家との対話を通じてそのニーズを把握し、協働して製品開発を行うことに注力し始めている。継続的に高品質な鋼材を生産するため新日鐵住金のもつ高度な操業技術力や一貫品質管理能力をウジミナス社でも確立することに加えて、需要家に対する技術サービスが重要な力となる。テルニウム社がラテンアメリカ諸国で展開してきた広範な営業ネットワークを活かすことも、輸出の拡大を通じて営業面で大きな柱となっていく。

鉱物・エネルギー資源、農業・森林資源に恵まれたブラジルは、2億人に近い人的資源を擁



イパチング火入れ50周年式典にて、新日鐵住金・宗岡正二会長（左）と

しており、今後のさらなる大きな経済発展の過程において、自動車、船舶をはじめとする輸送機関連、エネルギー資源開発、インフラストラクチャー建設といった分野において、板系鋼材に対する大きな需要が見込まれる。

ウジミナス社は、世界的な鉄鋼企業間での競争激化のなか、新日鐵住金グループの西半球と南半球における重要な生産拠点として大きな役割を發揮していくことになるが、BNDESおよびJBICならびに関係各方面の協力を得ながら、ブラジルはじめ中南米諸国のため、今後も成長の歩みを続けていきたい。



イパチング製鉄所全景